

# 所 報

(2023.2.1 ~ 2.28)

□刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』773号(2023年3月)

□図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	25	5	30
受 贈	18	0	18
合 計	43	5	48

□閲覧サービス

閲覧

開館日数	19日
閲覧者数	5名
貸出図書	20冊

コピーサービス

学外	7件	679枚
学内	0件	0枚

## 日 誌

- 1日 事務職員の部分的テレワーク継続(～28日)  
事務会議(オンライン)
- 8日 『日本労働年鑑』編集会議(オンライン)
- 9日 出張：みずしま財団・あおぞら財団・岡山大学  
資源植物科学研究所・大原美術館(環境アーカイブズによるみずしま財団・あおぞら財団・大原社研等関係施設の視察, 出張者:山本, 加藤, Kimberly, 須田)(～11日)
- 15日 『日本労働年鑑』編集会議(オンライン)
- 16日 大原社会政策研究会(103回)(於:法政大学大原社会問題研究所+オンライン)  
高橋麻美(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程)「居住支援における「複合的な困難」と交差性——A市居住支援協議会の事例から」
- 22日 運営委員会(オンライン)  
議題①次年度の兼任研究員の承認  
②次年度の客員研究員の承認

③次年度の嘱託研究員の承認

④専任研究員の海外出張について

⑤その他

公開講演会(於:法政大学大原社会問題研究所+オンライン)

上林千恵子(法政大学名誉教授)「外国人労働者問題から移民政策へ——日本の移民受け入れ過程の展開」(参加者61名)

研究員総会(於:法政大学大原社会問題研究所+オンライン)(参加者56名)

26日 日本アーカイブズ学会2022年度第2回研究会(オンライン)

榎一江「労働アーカイブズの現状と課題——法政大学大原社会問題研究所の事例より」

28日 環境・市民活動アーカイブズ資料整理研究会(於:法政大学大原社会問題研究所+オンライン)

『大原社会問題研究所雑誌』「高度経済成長のなかの葉害問題——サリドマイド事件関係資料を読み解く」特集をふり返る——執筆者による報告と相互討論」(参加者25名)山本唯人, 長谷川達朗, 松枝亜希子(立命館大学生存学研究所客員協力研究員), 川俣修壽(ジャーナリスト)

### 大原社会問題研究所雑誌

No.776(2023年6月号)

2023年6月1日発行

定価1,018円(本体926円+税10%)

年間購読12,000円(税込)

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所

編集長 藤原千沙

所 長 布川日佐史

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

電話042(783)2305

印刷 株式会社相模プリント

# 投稿募集

『大原社会問題研究所雑誌』は、社会労働問題に関する学術研究雑誌で、「論文」「資料紹介」「調査報告」の投稿を受け付けております。下記の投稿規程と執筆要領に基づいてご投稿ください。規程と要領に沿わない原稿は受理できません。[2019.10.1 改定]

## 投稿規程

1. 投稿原稿はワープロ・パソコン作成による未発表のものに限ります。
2. 投稿原稿の分量は、原則 20,000 字以内（図表・スペースを含む）です。
3. 投稿原稿は、審査用原稿となりますので、本文や注などで執筆者が特定される記述をしないでください。1 ページ目は、原稿の題目に続けて無記名で本文に入ってください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。「論文」は審査の結果、「研究ノート」となることがあります。
5. 掲載原稿には、掲載誌 2 冊と抜刷 30 部をさしあげます。
6. 投稿者は、次の各 3 部を下記宛てに郵送してください。

A：投稿原稿（審査用原稿）

B：投稿原稿の要旨（1,000 字程度）

C：表題紙

C の表題紙に記載する事項は、投稿原稿の、①題名、②目次、③分量（図表を除く文字数（スペースを含める））、④図表の有無と数、⑤著者の氏名（よみがなを併記）、⑥肩書き（所属・職名、大学の場合は学部等まで）、⑦略歴、⑧連絡先（郵便番号、住所、電話番号、電子メールアドレス）です。

7. 投稿者は、投稿原稿の郵送後、B：投稿原稿の要旨、C：表題紙を、下記宛てに電子メール（もしくは FAX）で送信してください。件名は【投稿(お名前)】としてください。

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会宛

【郵送先】〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 法政大学大原社会問題研究所

【メールアドレス】ohara-journal@hosei.ac.jp 【FAX】042-783-2311

## 投稿原稿 執筆要領

1. A 4 判の横書き、40 字×40 行、下部にページ数を付し、白黒・片面で印刷する。
2. 原則として、数字は算用数字、句読点は「、」と「。」を用いる。
3. 本文の各節には「.」のない 1 2 …を用いる。
4. ワードプロソフトによる脚注の挿入機能は使用してよい。
5. 図表は、白黒印刷できるものを提出する。本文には余白に【表 1】等と挿入場所を指定し、図表そのものは別紙に一括し、通し番号をつける。図表の文字換算数は定めないが、審査にあたっては、図表の大きさで全体の分量を概算する。
6. 参考文献は、著者名・発行年・論文名・雑誌名（書籍名）・巻号（出版社）・雑誌の場合は頁数を記述し、著者名（姓）のアルファベット順または五十音順に記載する。ただし他の記載方法も可とする。

### 【記載例】

榎一江（2017）「近代日本のパターナリズムと福利施設」『大原社会問題研究所雑誌』705号、29-43 頁。

原伸子（2015）「イギリスにおける福祉改革と子どもの貧困——「第三の道」と社会的投資アプローチ」原伸子・岩田美香・宮島喬編『現代社会と子どもの貧困——福祉・労働の視点から』大月書店。

Suzuki, Akira（2016）“Japanese Labour Unions and Nuclear Energy: A Historical Analysis of Their Ideologies and Worldviews,” *Journal of Contemporary Asia*, Vol.46, No.4, 591-613.

# 「論争」の文体

日本資本主義と統治装置

法政大学大原社会問題研究所、長原 豊、ギャヴィン・ウォーカー 編著

1920年代から30年代にかけてこの国のマルクス派を二分して闘われた〈日本資本主義論争〉とは、政治の文体あるいは物語をめぐる衝突であった。再生産論、革命論、国家論、そして天皇制——中断され、閉じられた論争の鍵概念をいまいちど現代思想の方法論的雑踏のなかになし戻し、資本の〈内部—外部〉を分析する諸論考のもとに新たな言説装置として再構築する試み。

■ A5判・上製・430頁/5280円

### ■ 主要目次 ■

はじめに——方法の問題と「論争」の始点

第一章 方法の問題——層序論的接近 (長原 豊)

第二章 「論争」の始点——〈帝国〉—主義 (長原 豊)

I 再領土化装置としての国家——再生産される「外部—他者」

第一章 危機・恐慌と植民地主義——併合される外部 (ケン・カワシマ [沖公祐訳])

第二章 新たな歴史学 (グローバル・ヒストリー) と「論争」の死角——抹消される外部 (平野克弥)

第三章 被差別部落という装置と原国家——側置される外部 (友常勉)

第四章 「女性」の不在と「惨苦の茅屋」——嵌入する外部 (桜一江)

II 脱領土化装置としての資本——再生産する「内部—自己」

第一章 「論争」の理論的地平——再生産論批判の観点から (沖公祐)

第二章 「古来もの」と残滓——「論争」の「時政学」的再指定 (ギャヴィン・ウォーカー [根岸海馬訳])

第三章 資本—主義の〈函獲—捕獲〉装置——資本と天皇—制 (長原 豊)

III 「論争」の予—後 (プログノーシス)——批評 (クリティーク) と史料 (アルシーヴ)

第一章 革命の代補——日本資本主義と「近代の超克」 (位田将司+立尾真士+宮澤隆義)

第二章 〈歴史的なこと〉の重囀 (アレゴリー)——「論争」の国際的再指定のために (ギャヴィン・ウォーカー [中村勝己訳])

謝辞 (長原 豊)

法政大学出版局

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3  
TEL 03-5214-5540/FAX 03-5214-5542

https://www.h-up.com/  
\*表示価格は税込のみです



有斐閣 新刊案内

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町2-17

https://www.yuhikaku.co.jp

表示価格は税込

## これからの障害心理学

〈わたし〉と〈社会〉を問う

中島由宇・沖潮満里子・広津侑実子 編 Yuhiko 四六判 定価2200円  
障害のある人のところに少しでも接近するために、障害のある人、家族、支援者等、たくさんの〈わたし〉の声をきき、〈社会〉を見つめます。

2023年3月刊

## 記憶を語る、歴史を書く

オーラルヒストリーと社会調査

朴 沙羅著

四六判 定価2530円

市井の人の証言は、歴史的な資料(史料)としてどのような意味で信頼に足るのか。社会科学の諸論争をフオリ、オーラルヒストリー/口述史を捉え直す。

2023年3月刊

## 〈わたし〉から始まる社会学

家族とジェンダーから歴史、そして世界へ

平井凜子・中島満大・中里英樹・森本一彦・落合恵美子 編

A5判 定価3960円

個人的なことが社会的なことにつながる、その面白さを味わいながら、歴史と比較といった社会学の射程の広さ、アプローチの多様性を体感できる。

2023年3月刊

## 親密圏と公共圏の社会学

ケアの20世紀体制を超えて

落合恵美子 著

A5判 定価3850円

「成熟社会」にふさわしい社会システム構築のために、社会と社会学から排除された生とケアを取り戻し、「生を包摂する」総合的な社会学論を構築する。

2023年3月刊

## 外国人雇用の産業社会学

雇用関係のなかの「同床異夢」

園田 薫 著

A5判 定価4950円

大企業と外国人雇員の雇用関係に注目、その独特の関係がいかにして成り立ち、なぜミスマッチが起こるかを調査をもとに明らかにする。

2023年4月刊

## 国際社会学

改訂版

宮島 喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂 編

A5判 定価3080円

国際社会学の定番教科書の改訂版。現代社会が直面する諸問題を理解し、人びとに寛容な社会を模索する。

2023年4月刊